



【日本気象協会からのお知らせ】

2026 年 9 月 8 日
一般財団法人 日本気象協会

阿武隈風力発電所などで復興をテーマにしたフィールド研修を実施 ～日本気象協会は自然環境に寄り添い、地域社会とともに地域共創・地域貢献の取り組みを推進します～

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:守屋 岳、以下「日本気象協会」)は、2026 年 6 月 25 日(木)から 26 日(金)に、「阿武隈風力発電所×復興 フィールド研修—復興の現場からアクションプランを考える—(以下「本研修」)」を実施しました。本研修は、福島県と阿武隈風力発電所を運営する福島復興風力合同会社(管理事務所:福島県田村市、代表者:平野 貴之、以下「福島復興風力」)の協力のもと、地域共創と地域貢献の取り組みを進める第一歩として、日本気象協会の若手職員向けに開催しました。

本研修の概要

本研修は、阿武隈風力発電所をさらなる地域貢献の場として活用するための地域共創・地域貢献策(アクションプラン)の検討に向けた第一歩として実施したものです。

日本気象協会の若手職員を中心とした研修参加者 13 名は、福島県が推進するホープツーリズム(※1)の考え方も踏まえながら、浜通り地域の復興関連施設や復興に向けた取り組みの現場を見学し、地域ごとの復興の現状について理解を深めました。

また、阿武隈風力第三・第四発電所展望設備や風力発電機の内部、管理事務所を見学し、発電所の管理や地域との関わりについてご紹介いただきました。

研修のまとめとして最後には、福島復興風力、福島県、地域の方々との対話を通じて得た学びを整理し、アクションプランを検討するグループワークを実施しました。グループワークでは、阿武隈風力発電所を地域資源の一つとして捉え、観光や交流につながる具体的なプランについて意見を出し合い、福島復興風力および福島県からフィードバックをいただきました。

※1 ホープツーリズム:福島の復興の現状を実際に「見る」、復興に向けて取り組む人々の話を「聞く」、地域や社会の課題について「考える」ことを通じて、福島の今と未来について学ぶとともに、新たな価値観や気づきを得る機会を提供する観光プログラム。

主な研修内容

〈阿武隈風力発電所関連施設の見学〉

阿武隈風力第三・第四発電所展望設備(福島県双葉郡葛尾村)と風力発電機のタワー内部を見学しました。

また、福島復興風力の管理事務所(福島県田村市)を訪問し、発電所の運用・管理体制や設備についてご紹介いただきました。



風力発電機タワー内部を見学している様子

〈浜通り地域における復興関連施設を訪問〉

福島県の協力のもと、双葉町や浪江町を訪問しました。

双葉町では、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学しました。また、町内をバスでまわりながら、震災発生前から現在に至るまでの地域の変化や復興に向けた取り組みをご紹介いただきました。

浪江町では、福島水素エネルギー研究フィールドおよび浪江駅周辺整備事業現地事務所を見学し、浪江町の復興に向けた取り組みの現状や課題についてご紹介いただきました。



福島水素エネルギー研究フィールドを見学している様子



〈福島復興風力と福島県による取り組み紹介〉

福島復興風力から、阿武隈風力発電所の運用・保守(O&M)に関する取り組みや、地域との協働の中で取り組んできた活動、今後の展望について話を聞きました。

福島県からは、県全体の現状や課題に加え、エネルギー分野に限らず県や自治体が進めている取り組みについてご紹介いただきました。



福島県の取り組みについてご紹介いただいた際の様子

〈グループワーク:復興の現場から、アクションプランを考える〉

最後に、本研修で得た気づきや、阿武隈風力発電所と地域との関わり、福島県内の復興の現状や再生可能エネルギーの活用に関する取り組みなどを踏まえ、阿武隈風力発電所を起点とした地域共創・地域貢献策(アクションプラン)を班ごとに検討しました。

グループワークでは、日本気象協会として地域とどのような関わり方ができるか、参加者一人ひとりが主体的に意見を出し合いました。各班の議論では、福島と継続的に関わる「関係人口(※2)」の創出や、地域活性化につながる仕組みの必要性が共通して提案されました。

各班で検討したアクションプランは、福島県および福島復興風力に共有し、実現に向けた観点や今後さらに検討すべき点などについて、フィードバックをいただきながら意見交換を行いました。今回検討した内容は、福島県および福島復興風力との対話を通じて具体化を進めていく予定です。



グループワークを行っている様子

※2 関係人口:移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

日本気象協会は、福島県および福島復興風力との連携を継続し、本研修を通じて得られた学びや気づきを活かしながら、これからも自然環境と地域社会の双方に寄り添った地域共創・地域貢献の取り組みを進めてまいります。

以上